令和３年度　能登香島中学校　　# 学校評価

【学校教育目標】「自己指導能力を身に付け、自ら進んで取り組む生徒の育成」

A：できた（十分取り組んでいる）　　B：まあまあできた（取り組んでいる）
C：あまりできない（あまり取り組めていない）　　D：できていない（取り組めていない）

視点	評価内容	評価
学力の向上	自ら課題を持ち、自己の学習活動の振り返りを次につなげる「主体的な学び」に向かう授業の推進	B
	「問題解決能力」の育成を目指した「深い学び」に向かう生徒主体の授業の推進	B
	「主体的に学ぶ力」の育成に向けた定期的な学習集会による全校の合意形成	B
	生徒会が主体となった「学びの構え」の定着や学習規律の作成	B
いじめ不登校の未然防止	いじめ・不登校の未然防止に重点を置いた取組の充実と早期発見・早期対応の取組の継続	A
	あらゆる教育活動における「自己有用感に裏付けられた自尊感情」の育成	B
	規律ある学校生活を送ることができる自己指導能力を身に付けた生徒の育成	A
	認め合う意欲や優しさ、思いやりの心の育成・いじめの未然防止・道徳的実践力の向上	A
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着と正しい食生活の見直し	A
	新型コロナウィルスの感染防止に向けた対応の徹底と充実	A
信頼される学校づくり	危機管理意識の高い教職員集団の育成	B
	生徒の学びや成長の連続性を意識した学校間の連携の推進（小中連携・中高連携）	B
	地域への積極的な情報公開や発信及びＰＴＡとの連携	A
	総合的な学習を軸とした教科横断的な学習と地域との連携	B
多忙化改善	教職員の意識改革と業務の時間的・人的な平準化による時間外勤務時間の減少	B

＜ご意見等＞
・コロナ禍のため、様々な活動に制限を受ける中で苦心されて取り組んでいるということを感じた。
・今年度も中学校での子どもたちの様子を見ることや地域との連携をとることは難しかったと思う。

＜今後に向けた主な対応＞

１　学力向上について

・本校生徒の課題は、「自分の考えを理由・根拠を交えて表現する」ことである。生徒にとって分かる授業、生徒が活動し、考える授業を目指して授業改善を行っていく。
・小中連携を生徒理解だけでなく、学力向上の面からも設定し、課題の改善に向けて９カ年を見通した接続を図る。その際、「書くこと」にも焦点をあてて取り組む。

２　いじめ・不登校の未然防止について

・「いじめは許されないこと」という思いを高めるために、外部講師等による講話を積極的に行う。また、お互いの良い面に目を向け、助け合うことの大切さを理解し、実際の行動につなげるために道徳教育の充実を図る。

３　信頼される学校づくり（保護者・地域との連携）について

・総合的な学習の時間を中心に地域学習を進め、各種の調査・体験活動等で保護者や地域との連携を図る。また、生徒会活動でも地域に目を向けることで、地域を大切にする心を育んでいく。